

注3

大学番号：私333

[平成23年度設置]

計画の区分：学部の学科の設置

注1

京都造形芸術大学 芸術学部

プロダクトデザイン学科・マンガ学科・文芸表現学科

注2

届出

【届出】設置に係る設置計画履行状況報告書

学校法人 瓜生山学園

平成26年5月1日現在

作成担当者

担当部局（課）名 教学事務室

職名・氏名 教学支援グループ グループヘッド

徳丸 成人

電話番号 075-791-9125

（夜間） 075-791-9121

F A X 075-791-9233

e-mail marutoku@office.kyoto-art.ac.jp

(注) 1 「計画の区分」は設置時の基本計画書「計画の区分」と同様に記載してください。

2 大学院の場合は、表題を「〇〇大学大学院・・・」と記入してください。

設置時から対象学部等の名称変更があった場合には、表題には設置時の旧名称を記載し、その下欄に

() 書きにて、現在の名称を記載してください。

例) 〇〇大学 △△学部

(□□学部(平成◇◇年度より変更))

表題は「計画の区分」に従い、記入してください。

例)

・学部の設置の場合：「〇〇大学 △△学部」

・学部の学科の設置の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科」

・短期大学の学科の設置の場合：「〇〇短期大学 △△学科」

・大学院の研究科の設置の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科」

・通信教育課程の開設の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科(通信教育課程)」

※「留意事項実施状況報告書」の場合は、表題を修正してください。

3 大学番号の欄については、平成26年3月20日付事務連絡「大学等の設置に係る設置計画履行状況報告書等の提出について(依頼)」の別紙に記載のある大学番号を記載してください。

1 調査対象大学等の概要等

(1) 設置者

学校法人 瓜生山学園

(2) 大学名

京都造形芸術大学

(3) 大学の位置

〒606-8271

京都府京都市左京区北白川瓜生山2-116

- (注) ・対象学部等の位置が大学本部の位置と異なる場合、本部の位置を()書きで記入してください。
 ・対象学部等が複数のキャンパスに所在する場合には、複数のキャンパスの所在地をそれぞれ記載してください。

(4) 管理運営組織

職名	設置時	変更状況	備考
理事長	(トクヤマ ショウチョク) 徳山 詳直 (昭和41年5月)		
学長	(センジュ ヒロシ) 千住 博 (平成19年4月)	(オイケ カズオ) 尾池 和夫 (平成25年4月)	任期満了に伴う変更 平成25年4月1日 (25)
学部長	(オオノギ ヒロユキ) 大野木 啓之 (平成17年4月)	(ネノキ マサアキ) 根之木 正明 (平成24年4月)	任期満了に伴う変更 平成24年4月1日 (24)
学科長等	(ウエマツ トヨユキ) 植松 豊行 (平成23年4月)		プロダクトデザイン学科長
	(シガ キミエ) 志賀 公江 (平成23年4月)		マンガ学科長
	(カドサキ ケイイチ) 門崎 敬一 (平成23年4月)	(メンジョウ ツヨシ) 校條 剛 (平成26年4月)	体調不良による交代 文芸表現学科長 平成26年4月1日 (26)

- (注) ・「変更状況」は、変更があった場合に記入し、併せて「備考」に変更の理由と変更年月日、報告年度を()書きで記入してください。

(例) 平成24年度に報告済の内容 → (24)

平成26年度に報告する内容 → (26)

- ・昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更があれば、「変更状況」に赤字にて記載(昨年度までに報告された記載があれば、そこに赤字で見え消し修正)するとともに、上記と同様に、「備考」に変更理由等を記入してください。
 ・大学院の場合には、「職名」を「研究科長」等と修正して記入してください。

(5) 調査対象学部等の名称, 定員, 入学者の状況等

- (注) ・ 当該調査対象の学部の学科または研究科の専攻等, 定員を定めている組織ごとに記入してください(入試区分ごとではありません)。
 ・ 様式は, 平成23年度開設の4年制の学科の場合(平成26年度までの4年間)ですが, 開設年度・修業年限に合わせて作成してください。(修業年限が3年以下の場合には欄を削除し, 5年以上の場合には, 欄を設けてください。)

(5) - ① 調査対象学部等の名称, 定員

調査対象学部等の名称(学位)	設置時の計画				備考
	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	
芸術学部 プロダクトデザイン学科 学士(芸術)	4年	40人	2年次 1人 3年次 2人	167人	

- (注) ・ 定員を変更した場合は, 「備考」に変更前の人数, 変更年月及び報告年度を()書きで記入してください。
 ・ 学生募集停止を予定している場合は, 「備考」にその旨記載してください。

(5) - ② 調査対象学部等の入学者の状況

区分	平成23年度		平成24年度		平成25年度		平成26年度		平均入学定員超過率	備考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期		
A 入学定員	40 (-) [-]	-	40 (1) [-]	-	40 ((3)) [-]	-	40 ((3)) [-]	-	1.19倍 留学生の入学定員は若干名とする。 (())は, 編入学合計	
志願者数	179 (-) [9]	- (-) [-]	188 (2) [6]	- (-) [-]	151 ((4)) [12]	- (-) [-]	162 (1) [9]	- (-) [-]		
受験者数	177 (-) [9]	- (-) [-]	187 (2) [6]	- (-) [-]	144 ((4)) [10]	- (-) [-]	156 (1) [9]	- (-) [-]		
合格者数	65 (-) [2]	- (-) [-]	74 (1) [3]	- (-) [-]	81 ((4)) [8]	- (-) [-]	82 (1) [5]	- (-) [-]		
B 入学者数	45 (-) [2]	- (-) [-]	48 (1) [1]	- (-) [-]	47 ((3)) [5]	- (-) [-]	51 (1) [2]	- (-) [-]		
入学定員超過率 B/A	1.12倍		1.20倍		1.17倍		1.27倍			

- (注) ・ 数字は, 平成26年5月1日現在の数字を記入してください。
 ・ () 内には, 編入学の状況について**外数**で記入してください。なお, 編入学を複数年次で行っている場合には, (())書きとするなどし, その旨を「備考」に付記してください。該当がない年には「-」を記入してください。
 ・ [] 内には, 留学生の状況について**内数**で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
 ・ 留学生については, 「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格(いわゆる「留学ビザ」)により, 我が国の大学(大学院を含む。), 短期大学, 高等専門学校, 専修学校(専門課程)及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
 ・ 短期交換留学生など, 定員内に含めていない学生については記入しないでください。
 ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は, 春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学の実施の場合は, その他の学期欄は「-」を記入してください。また, その他の学期に入学定員を設けている場合は, 備考欄にその人数を記入してください。
 ・ 「入学定員超過率」については, **各年度の春季入学とその他を合計した入学定員, 入学者数で算出**してください。なお, 計算の際は小数点以下第3位を切り捨て, 小数点第2位まで記入してください。
 ・ 「平均入学定員超過率」には, 開設年度から提出年度までの入学定員超過率の平均を記入してください。なお, 計算の際は「入学定員超過率」と同様にしてください。

(5) -③ 調査対象学部等の在学者の状況

学年	平成23年度		平成24年度		平成25年度		平成26年度		備考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	
1年次	[2] 45	[-] -	[1] 50	[-] -	[5] 50	[-] -	[2] 52	[-] -	
2年次	/		[1] 40	[-] -	[1] 46	[-] -	[5] 47	[-] -	
3年次			/		/		[3] 40	[-] -	[0] 44
4年次	/						/		[3] 36
計			[2] 45	[2] 90	[9] 136	[10] 179			

- (注) ・ 数字は、平成26年5月1日現在の数字を記入してください。
- ・ []内には、留学生の状況について**内数**で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
 - ・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格（いわゆる「留学ビザ」）により、我が国の大学（大学院を含む。）、短期大学、高等専門学校、専修学校（専門課程）及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
 - ・ 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。
 - ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期（春季入学以外の学期区分を設けている場合）に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
 - ・ 「計」については、**各年度の春季入学とその他の学期を合計した在学者数、留学生数**を記入してください。

(5) - ④ 調査対象学部等の退学者等の状況

区分 対象年度	入学者数(b)	退学者数(a)	退学者数(内訳)			主な退学理由	入学者数に 対する退学者数 の割合 (a/b)
			退学した年度	退学者数	退学者数の うち留学生数		
平成23年度 入学者	45 人	7 人	平成23年度	3 人	1 人	他の教育機関への入学・転学(2人) その他(1人)	15.6 %
			平成24年度	2 人	0 人	他の教育機関への入学・転学(1人) 病気(1人)	
			平成25年度	2 人	0 人	経済的理由(2人)	
			平成26年度	0 人	0 人		
平成24年度 入学者	48 人	5 人	平成24年度	2 人	0 人	就学意欲の低下(1人) その他(1人)	10.4 %
			平成25年度	3 人	1 人	その他(3人)	
			平成26年度	0 人	0 人		
平成25年度 入学者	47 人	1 人	平成25年度	1 人	0 人	就学意欲の低下(1人)	0.0 %
			平成26年度	0 人	0 人		
平成26年度 入学者	49 人	0 人	平成26年度	0 人	0 人		0.0 %
合 計	189 人	13 人					6.9 %

(注)・数字は、平成26年5月1日現在の数字を記入してください。

- ・各年度の入学者数については、該当年度当初に入学した人数を記入してください。(途中で退学者がいた場合でも、その退学者数を減らす必要はありません。)
- ・各年度の退学者数については、退学年度ごとに記入してください。また、留学生数欄の人数については、退学者数の内数を記入してください。
- ・留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格(いわゆる「留学ビザ」)により、我が国の大学(大学院を含む。)、短期大学、高等専門学校、専修学校(専門課程)及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記入してください。
- ・「入学者数に対する退学者数の割合」は、【当該対象年度の入学者のうち、平成26年5月1日現在までに退学した学生数の合計】を、【当該対象年度の入学者数】で除した割合(%)を記入してください。その際、小数点以下第2位を四捨五入し、小数点以下第1位までを記入してください。
- ・「主な退学理由」は、下の項目を参考に記入してください。その際、「就学意欲の低下(〇人)」というように、その人数も含めて記入してください。
(記入項目例)・就学意欲の低下 ・学力不足 ・他の教育機関への入学・転学 ・海外留学
・就職 ・学生個人の心身に関する事情 ・家庭の事情 ・除籍 ・その他

(5) 調査対象学部等の名称, 定員, 入学者の状況等

- (注) ・ 当該調査対象の学部の学科または研究科の専攻等, 定員を定めている組織ごとに記入してください(入試区分ごとではありません)。
 ・ 様式は, 平成23年度開設の4年制の学科の場合(平成26年度までの4年間)ですが, 開設年度・修業年限に合わせて作成してください。(修業年限が3年以下の場合には欄を削除し, 5年以上の場合には, 欄を設けてください。)

(5) - ① 調査対象学部等の名称, 定員

調査対象学部等の名称(学位)	設置時の計画				備考
	修業年限	入学定員	編入学定員	收容定員	
芸術学部 マンガ学科 学士(芸術)	4年	45人	2年次 1人 3年次 2人	187人	

- (注) ・ 定員を変更した場合は, 「備考」に変更前的人数, 変更年月及び報告年度を()書きで記入してください。
 ・ 学生募集停止を予定している場合は, 「備考」にその旨記載してください。

(5) - ② 調査対象学部等の入学者の状況

区分	対象年度		平成23年度		平成24年度		平成25年度		平成26年度		平均入学定員超過率	備考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期		
A 入学定員	45 (-) [-]	-	45 (1) [-]	-	45 ((3)) [-]	-	45 ((3)) [-]	-	45 ((3)) [-]	-	1.10倍 留学生の入学定員は若干名とする。 平成23年度入学者51名うち除籍1名(4/3付) (())は, 編入学合計	
志願者数	157 (-) [11]	-	116 (0) [12]	-	150 (3) [19]	-	125 (1) [5]	-	125 (1) [5]	-		
受験者数	155 (-) [10]	-	115 (0) [12]	-	147 (3) [19]	-	124 (1) [5]	-	124 (1) [5]	-		
合格者数	62 (-) [5]	-	61 (0) [5]	-	66 (1) [7]	-	68 (0) [4]	-	68 (0) [4]	-		
B 入学者数	50 (-) [4]	-	47 (-) [4]	-	53 (-) [4]	-	49 (0) [2]	-	49 (0) [2]	-		
入学定員超過率 B/A	1.11倍		1.04倍		1.17倍		1.08倍					

- (注) ・ 数字は, 平成26年5月1日現在の数字を記入してください。
 ・ () 内には, 編入学の状況について**外数**で記入してください。なお, 編入学を複数年次で行っている場合には, (())書きとするなどし, その旨を「備考」に付記してください。該当がない年には「-」を記入してください。
 ・ [] 内には, 留学生の状況について**内数**で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
 ・ 留学生については, 「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格(いわゆる「留学ビザ」)により, 我が国の大学(大学院を含む。), 短期大学, 高等専門学校, 専修学校(専門課程)及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
 ・ 短期交換留学生など, 定員内に含めていない学生については記入しないでください。
 ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は, 春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学の実施の場合は, その他の学期欄は「-」を記入してください。また, その他の学期に入学定員を設けている場合は, 備考欄にその人数を記入してください。
 ・ 「入学定員超過率」については, 各年度の春季入学とその他を合計した入学定員, 入学者数で算出してください。なお, 計算の際は小数点以下第3位を切り捨て, 小数点第2位まで記入してください。
 ・ 「平均入学定員超過率」には, 開設年度から提出年度までの入学定員超過率の平均を記入してください。なお, 計算の際は「入学定員超過率」と同様にしてください。

(5) -③ 調査対象学部等の在学者の状況

学 年	平成23年度		平成24年度		平成25年度		平成26年度		備 考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	
1年次	[4] 50	[-] -	[4] 47	[-] -	[4] 53	[]	[2] 49	[-] -	
2年次	/		[4] 50	[-] -	[5] 45	[]	[6] 56	[-] -	
3年次			/		/		[2] 46	[]	[3] 40
4年次	/						/		/
計			[4] 50	[8] 97	[11] 144	[11] 187			

- (注) ・ 数字は、平成26年5月1日現在の数字を記入してください。
- ・ []内には、留学生の状況について**内数**で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
 - ・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格（いわゆる「留学ビザ」）により、我が国の大学（大学院を含む。）、短期大学、高等専門学校、専修学校（専門課程）及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
 - ・ 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。
 - ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期（春季入学以外の学期区分を設けている場合）に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
 - ・ 「計」については、**各年度の春季入学とその他の学期を合計した在学者数、留学生数**を記入してください。

(5) -④ 調査対象学部等の退学者等の状況

区分 対象年度	入学者数(b)	退学者数(a)	退学者数(内訳)			主な退学理由	入学者数に 対する退学者数 の割合 (a/b)
			退学した年度	退学者数	退学者数の うち留学生数		
平成23年度 入学者	50 人	3 人	平成23年度	1 人	0 人	経済的理由(1人)	6.0 %
			平成24年度	2 人	1 人	その他(2人)	
			平成25年度	0 人	0 人		
			平成26年度	0 人	0 人		
平成24年度 入学者	47 人	4 人	平成24年度	2 人	0 人	経済的理由(2人)	8.5 %
			平成25年度	2 人	0 人	就学意欲の低下(1人) その他(1人)	
			平成26年度	0 人	0 人		
平成25年度 入学者	53 人	2 人	平成25年度	2 人	0 人	就学意欲の低下(1人) その他(1人)	3.8 %
			平成26年度	0 人	0 人		
平成26年度 入学者	49 人	0 人	平成26年度	0 人	0 人		0 %
合 計	199 人	9 人					4.5 %

(注)・数字は、平成26年5月1日現在の数字を記入してください。

- ・各年度の入学者数については、該当年度当初に入学した人数を記入してください。(途中で退学者がいた場合でも、その退学者数を減らす必要はありません。)
- ・各年度の退学者数については、退学年度ごとに記入してください。また、留学生数欄の人数については、退学者数の内数を記入してください。
- ・留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格(いわゆる「留学ビザ」)により、我が国の大学(大学院を含む。)、短期大学、高等専門学校、専修学校(専門課程)及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記入してください。
- ・「入学者数に対する退学者数の割合」は、【当該対象年度の入学者のうち、平成25年度5月1日現在までに退学した学生数の合計】を、【当該対象年度の入学者数】で除した割合(%)を記入してください。その際、小数点以下第2位を四捨五入し、小数点以下第1位までを記入してください。
- ・「主な退学理由」は、下の項目を参考に記入してください。その際、「就学意欲の低下(〇人)」というように、その人数も含めて記入してください。
(記入項目例)・就学意欲の低下 ・学力不足 ・他の教育機関への入学・転学 ・海外留学
・就職 ・学生個人の心身に関する事情 ・家庭の事情 ・除籍 ・その他

(5) 調査対象学部等の名称, 定員, 入学者の状況等

- (注) ・ 当該調査対象の学部の学科または研究科の専攻等, 定員を定めている組織ごとに記入してください(入試区分ごとではありません)。
 ・ 様式は, 平成23年度開設の4年制の学科の場合(平成26年度までの4年間)ですが, 開設年度・修業年限に合わせて作成してください。(修業年限が3年以下の場合には欄を削除し, 5年以上の場合には, 欄を設けてください。)

(5) - ① 調査対象学部等の名称, 定員

調査対象学部等の名称(学位)	設置時の計画				備考
	修業年限	入学定員	編入学定員	收容定員	
芸術学部 文芸表現学科 学士(芸術)	4年	35人	2年次 0人 3年次 0人	140人	入学定員変更 変更前24名 平成26年4月(26)

- (注) ・ 定員を変更した場合は, 「備考」に変更前の人数, 変更年月及び報告年度を()書きで記入してください。
 ・ 学生募集停止を予定している場合は, 「備考」にその旨記載してください。

(5) - ② 調査対象学部等の入学者の状況

区分	対象年度		平成23年度		平成24年度		平成25年度		平成26年度		平均入学定員超過率	備考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期		
A 入学定員	24人 (-) [-]	-	24人 (-) [-]	-	24人 (-) [-]	-	35人 (-) [-]	-			1.53倍 留学生の入学定員は若干名とする。	
志願者数	92 (-) [0]	-	113 (0) [1]	-	135 (-) [0]	-	79 (3) [1]	-				
受験者数	92 (-) [0]	-	113 (0) [1]	-	132 (-) [0]	-	77 (3) [1]	-				
合格者数	64 (-) [0]	-	60 (0) [1]	-	41 (-) [0]	-	41 (1) [0]	-				
B 入学者数	45 (-) [0]	-	44 (-) [1]	-	35 (-) [0]	-	35 (1) [0]	-				
入学定員超過率 B/A	1.87倍		1.83倍		1.45倍		1.00倍					

- (注) ・ 数字は, 平成26年5月1日現在の数字を記入してください。
 ・ ()内には, 編入学の状況について外数で記入してください。なお, 編入学を複数年次で行っている場合には, (())書きとするなどし, その旨を「備考」に付記してください。該当がない年には「-」を記入してください。
 ・ []内には, 留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
 ・ 留学生については, 「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格(いわゆる「留学ビザ」)により, 我が国の大学(大学院を含む。), 短期大学, 高等専門学校, 専修学校(専門課程)及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
 ・ 短期交換留学生など, 定員内に含めていない学生については記入しないでください。
 ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は, 春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は, その他の学期欄は「-」を記入してください。また, その他の学期に入学定員を設けている場合は, 備考欄にその人数を記入してください。
 ・ 「入学定員超過率」については, 各年度の春季入学とその他を合計した入学定員, 入学者数で算出してください。なお, 計算の際は小数点以下第3位を切り捨て, 小数点第2位まで記入してください。
 ・ 「平均入学定員超過率」には, 開設年度から提出年度までの入学定員超過率の平均を記入してください。なお, 計算の際は「入学定員超過率」と同様にしてください。

(5) -③ 調査対象学部等の在学者の状況

学年	平成23年度		平成24年度		平成25年度		平成26年度		備考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	
1年次	[0] 45	[-] -	[1] 45	[-] -	[0] 35	[]	[0] 36	[-] -	
2年次	/		[-] 40	[-] -	[1] 44	[]	[0] 36	[-] -	
3年次			/		/		[0] 36	[]	[1] 45
4年次	/						/		/
計			[0] 45	[1] 85	[1] 115	[1] 143			

- (注) ・ 数字は、平成26年5月1日現在の数字を記入してください。
- ・ []内には、留学生の状況について**内数**で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
 - ・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格（いわゆる「留学ビザ」）により、我が国の大学（大学院を含む。）、短期大学、高等専門学校、専修学校（専門課程）及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
 - ・ 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。
 - ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期（春季入学以外の学期区分を設けている場合）に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
 - ・ 「計」については、**各年度の春季入学とその他の学期を合計した在学者数、留学生数**を記入してください。

(5) - ④ 調査対象学部等の退学者等の状況

区分 対象年度	入学者数(b)	退学者数(a)	退学者数(内訳)			主な退学理由	入学者数に 対する退学者数 の割合 (a/b)
			退学した年度	退学者数	退学者数の うち留学生数		
平成23年度 入学者	45 人	12 人	平成23年度	4 人	0 人	就学意欲の低下(1人)、病気(1名)、 他の教育機関への入学・転学(2名)	26.7 %
			平成24年度	4 人	0 人	就学意欲の低下(2人)、病気(1名)、 他の教育機関への入学・転学(1名)	
			平成25年度	4 人	0 人	就学意欲の低下(2人)、病気(1名)、 他の教育機関への入学・転学(1名)	
			平成26年度	0 人	0 人		
平成24年度 入学者	44 人	3 人	平成24年度	1 人	0 人	就学意欲の低下(1人)	6.8 %
			平成25年度	2 人	0 人	就学意欲の低下(1人)、経済的理由(1人)	
			平成26年度	0 人	0 人		
平成25年度 入学者	35 人	1 人	平成25年度	1 人	0 人	就職(1人)	2.9 %
			平成26年度	0 人	0 人		
平成26年度 入学者	35 人	0 人	平成26年度	0 人	0 人		0.0 %
合 計	159 人	16 人					10.1 %

(注)・ 数字は、平成26年5月1日現在の数字を記入してください。

- ・ 各年度の入学者数については、該当年度当初に入学した人数を記入してください。(途中で退学者がいた場合でも、その退学者数を減らす必要はありません。)
- ・ 各年度の退学者数については、退学年度ごとに記入してください。また、留学生数欄の人数については、退学者数の内数を記入してください。
- ・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格(いわゆる「留学ビザ」)により、我が国の大学(大学院を含む。)、短期大学、高等専門学校、専修学校(専門課程)及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記入してください。
- ・ 「入学者数に対する退学者数の割合」は、【当該対象年度の入学者のうち、平成25年度5月1日現在までに退学した学生数の合計】を、【当該対象年度の入学者数】で除した割合(%)を記入してください。その際、小数点以下第2位を四捨五入し、小数点以下第1位までを記入してください。
- ・ 「主な退学理由」は、下の項目を参考に記入してください。その際、「就学意欲の低下(〇人)」というように、その人数も含めて記入してください。
(記入項目例)・就学意欲の低下 ・学力不足 ・他の教育機関への入学・転学 ・海外留学
・就職 ・学生個人の心身に関する事情 ・家庭の事情 ・除籍 ・その他

6 留意事項に対する履行状況等

区 分	留 意 事 項	履 行 状 況	未履行事項について の実施計画
設 置 時 (〇〇年〇〇月)	届出学科の為、該当無し		
設置計画履行状況 調 査 時 (22年5月)	該当なし		
設置計画履行状況 調 査 時 (23年5月)	芸術学部文芸表現学科、芸術表現・アートプロデュース学科の入学定員超過の是正に努めること。	定員超過は 文芸表現学科 1.85倍 芸術表現・アートプロデュース学科 1.40倍であった。	次年度入試においては、今年度の状況を踏まえて、入学手続き率の判断を行い、是正に努める。
設置計画履行状況 調 査 時 (24年5月)	<p>○入学定員を大幅に超える学生を入学させており、教育環境の悪化が懸念されることから、入学者選抜の方針、適切な定員管理について再検討し、教育環境の充実に努めること。(文芸表現学科)</p> <p>○芸術学部芸術表現・アートプロデュース学科、文芸表現学科の入学定員超過の是正に努めること</p>	<p>○平成25年度から、学生の自習室等(文芸表現学科、芸術表現・アートプロデュース学科兼用)を、約3倍(56.1㎡⇒167㎡)の広さに拡大し、学生の教育環境の充実に図った。</p> <p>○芸術表現・アートプロデュース学科については、平成25年度入学者28名(平成24年度35名)、文芸表現学科については同35名(同44名)と是正を行った。</p>	○芸術表現・アートプロデュース学科、文芸表現学科において、平成26年度定員増の申請を行っている。(平成25年4月提出済み)
設置計画履行状況 調 査 時 (25年5月)	<p>○入学定員を大幅に超える学生を入学させており、教育環境の悪化が懸念されることから、入学者選抜の方法、適切な定員管理について検証し、定員超過の是正に努めるとともに、教育環境の充実に努めること。(文芸表現学科)</p> <p>○適切な授業回数を実施する計画となっていることがわかるよう、シラバスの記載を改めること。(文芸表現学科)</p>	<p>○教育環境については、平成25年度より自習室の拡充を図っている。 平成26年度より入学定員を24名から35名に変更 平成26年度入学生は、35名となり、定員超過の是正を行った。</p> <p>○授業15週目に共通で設けていた合評週間を平成26年度より廃止、通常授業週とし、シラバスの授業計画の記載についても、15週で記載するよう徹底した。</p>	<p>○次年度以降も引続き、定員超過について留意し、入試を行っていく。</p> <p>○今後も記載方法について周知徹底し、記載内容のチェックを行うようにする。</p>

○A○入試である「コミュニケーション入学」について、合格後の「入学前学習プログラム」の取組状況によっては合格取消もあり得る旨が募集要項に記載されているが、合格取り消しが当該学生に与える不利益の大きさを考えると、「コミュニケーション入学」は「入学前学習プログラム」とセットの仕組みであること、及び、それゆえに合格取り消しもあり得ることを今以上に明示し周知する必要がある。したがって、入学志願者等が「コミュニケーション入学」の制度内容を誤解なく正確に理解した上で受験するか否かの判断ができるよう、募集要項やホームページなど公表資料における入試情報の記載内容、表現を改善するとともに、資料によらない説明においても制度内容を正確に説明・周知すること。（文芸表現学科）

○芸術学部文芸表現学科、芸術表現・アートプロデュース学科、キャラクターデザイン学科の入学定員超過の是正に努めること。

○コミュニケーション入学については、受験意思を持った受験生が、「エントリー→2日間の体験授業→大学より結果通知（出願可・出願不可）→出願可の結果を受け取った学生が、入学意思を示す場合に、出願→合格」という流れを取っている。この流れについては、学生募集要項やオープンキャンパスで、繰り返し丁寧に伝えている。

○今回留意事項となった点については、「入学前学習プログラム」の取組状況によって、その課題に取り組まない志願者が出た場合の対応について、志願者本人に加え、出身校、保護者とも丁寧な状況確認や改善指導の面談をした上で、「入学後の修学の継続が難しい」と大学および出願者相互に判断した場合に、「入学許可を取り消す」としている。更に本制度について、上記「出願可→出願」の際に、書面で内容を確認した上で本人と保護者による署名入りの確認書を受領した上で、出願を受け付けるようにしており、今後もこの手続きは継続する。この確認書を通して、出願にあたって、本制度に関する志願者における制度の誤解が無い事を確認をしている。

○平成26年度より、それぞれ入学定員を下記の通り変更した。
 文芸表現学科24名⇒35名、芸術表現・アートプロデュース学科20名⇒25名、キャラクターデザイン学科50名⇒58名
 平成26年度の入学者は、下記の通り。
 文芸表現学科35名（定員超過率平成25年度1.45→平成26年度1.00）、芸術表現・アートプロデュース学科28名（同1.40→1.16）、キャラクターデザイン学科77名（同1.58→1.32）と、3学科とも改善する事ができたが、キャラクターデザイン学科については、依然1.3を越える定員超過率となった。

○これまでも学生募集要項やオープンキャンパス等で当該入試制度について説明を行ってきたが、今後は、募集要項の記載内容や方法および、オープンキャンパス等での説明を受験生にとってよりわかりやすいものに改善を行う。

○受験生・保護者・高校にとって、当該入試制度に対する齟齬が生じないように、これまでどおり「出願時」に、書面で内容を確認した、署名・捺印の上「確認書」を提出していただくことを継続して行う。

○以前「補欠合格制度」を導入していたが、高校の指導現場から、「いつ繰り上がるかわかりづらい補欠合格の制度は、生徒の進路決定に支障をきたすので見直しをしてほしい」という意見を受け、本学では補欠合格の制度を廃止していた。今後は、繰上げの最終判断時期等を明示し、受験生や高校側に明確な判断基準を提示した上で補欠合格制度を積極的に導入し、年度によっての事務率の大幅な上下動を原因とする定員超過を防ぐように努める。また、今回超過の原因となった「韓国入試」についても、同様の見直しを行う。

（注）・「設置時」には、当該大学等の設置時に付された留意事項（学校法人の寄附行為又は寄附行為変更の認可の申請に係る留意事項を除く。）と、それに対する履行状況等について、具体的に記入し、報告年度を（ ）書きで付記してください。

- ・「設置計画履行状況調査時」には、当該設置計画履行状況調査の結果、付された留意事項に対する履行状況等について、具体的に記入するとともに、その履行状況等を裏付ける資料があれば、添付してください。
- ・定員管理に係る留意事項への履行状況は、指摘を受けた学科等についてのみ記入してください。
- ・該当がない場合には、「該当なし」と記入してください。

7 その他全般的事項

<芸術学部 プロダクトデザイン学科><芸術学部 マンガ学科><芸術学部 文芸表現学科>

(1) 設置計画変更事項等

設置時の計画	変更内容・状況, 今後の見通しなど
該当なし	

- (注) ・ 1～6の項目に記入した事項以外で、設置時の計画より変更のあったもの（未実施を含む。）及び法令適合性に関して生じた留意すべき事項について記入してください。
- ・ 設置時の「設置の趣旨等を記載した書類」の項目に沿って作成し、それ以外の事柄については適宜項目を設けてください。（記入例参照）

(2) 教員の資質の維持向上の方策（FD活動含む）

① 実施体制

a 委員会の設置状況

本学では自己点検・評価及びFDを教育の質向上のための重点事項と位置づけており、自己点検・評価については平成12年度より自己点検・評価委員会（学長、研究科長、副学長、学部長、通信教育部長、専務理事、事務局長により構成）を組織し、FDについては副学科長により構成される教務委員会が中心となって取り組んでいる。自己点検・評価は平成20年に内容及び方法を見直し、平成21年度からは既存のメンバーに加え、各学科より1名の委員を出すことにより、委員会の活動内容をより現場の教育にフィードバックしやすい体制とした。

b 委員会の開催状況（教員の参加状況含む）

自己点検・評価委員会は定例での開催ではなく、授業アンケート等の実施時期にあわせた不定期開催である（例年4～5回の開催）。平成20年度までは役職者中心の少数による委員会構成であったため、全委員が出席できる日を会議日に設定し開催していたが、議題の内容によっては委員以外の教員にも出席を求めるなど拡大メンバーでの委員会開催としている。また、教務委員会は月1回定例開催しており、副学科長が出席できない場合は同一学科の他の教員が代替出席するなどして原則全員出席で運営している。

c 委員会の審議事項等

- ・ カリキュラムの精査、現状報告及び改善策の検討
- ・ 授業評価アンケートの結果分析及びカリキュラムへのフィードバック
- ・ 教育活動点検評価の運営（業績及び自己点検結果の確認及びそれに対する客観的 point 検、面談等）

② 実施状況

a 実施内容

① 授業方法について研究会

② 授業評価アンケート

（平成23年6月より）アンケートの内容の改善に着手（23）

③ 教員相互の授業参観

④ 教育活動点検評価（業績及び自己点検結果の確認及びそれに対する客観的 point 検、面談等）

⑤ （平成23年5月より）入学前教育プログラムの改善（23）

⑥ （平成24年2月より）教育力向上を目的とした F D e r 養成研修開始（23～24）

⑦ （平成23年12月より）カリキュラム検討委員会の発足（23～24）

⑧ c a p 制の導入検討と実施の決定（25）

- ⑨平成26年度からのセメスター制の導入の検討と実施の決定 (26)
- ⑩平成26年度からの後期履修登録修正制度の導入の検討と実施の決定 (26)
- ⑪合評期間の廃止とシラバス記載方法の改善 (26)

b 実施方法

①研究会…全学的な研究会としては不定期開催。全教員が自由に参加できる。
また、上記研究会とは別に教務委員会内において各学科の取り組みを報告し、情報共有している。

平成24年度から教務委員会の主催で、毎年5学科程度の「研究室」訪問を実施。教育方法だけでなく、学科運営に関する情報の共有を行っている (26)

②半期ごとに学生による授業評価アンケートを実施している。

教務委員会のメンバーからワーキンググループを構成し、従来のアンケート項目の内容の検証を行い、新たに設問内容を検討、予備調査も実施し、平成24年度からの運用を予定している (23)
平成24年度から内容を刷新し、授業評価に加え、授業への取組態度を問う内容とした。 (25)

③授業参観は前期・後期に可能な科目を各学科より教務委員会へ提出し、当該科目における参観を推奨している。その他科目についても特に時期を設けず常時参観を認めているが、特に年2回合評期間を設けその期間中は他の授業や合評への参加を大学全体として推奨している。

授業参観については、平成24年度以降、下記集中研修を受講している教員の授業の参観に制度を変更。本学のモデル授業を見学する事とした。 (26)

④年1回、業績報告及び個々の教員による自己点検を実施し、それに対する客観的 point 検を学内で実施したうえで面談を行い、教育活動の内容確認と評価、今後の期待事項などの確認を行なっている。

⑤教務委員会のメンバーからワーキンググループを構成し、入学前のプログラムについて、入学広報課と協議の上、内容の検証を行い、課題の趣旨の徹底や課題提出促進の改善を行った。 (23)

⑥全学科から1～2名の教員を選出し、外部講師を招き、1年間かけてF D e rの養成を目的とした連続研修(4回の集中研修と2回の授業コンサルテーションを予定) (23～24)

⑦学部長をプロジェクトリーダーとし、特別委員会を組織。基礎学力の不足や修学意欲の低下などの学生の実態に沿ったカリキュラム及び体制を教授会に答申する事を目的とする。 (23～24)

⑧平成24年度教務委員会にて、C A P制の導入を検討し、平成25年度入学生からの導入を決定した。 (25)

⑨平成25年度教務委員会にて、セメスター制の導入(通年科目の廃止)を検討し、平成26年度入学生からの導入を決定した (26)

⑩平成25年度教務委員会にて、前期の成績の結果を踏まえて、後期の履修内容の変更が可能にできるように、平成26年度から後期履修登録修正期間を設定した。 (26)、

⑪平成25年度教務委員会にて、授業運営の融通を高める為、15週目に一斉に設けていた合評週間を廃止。それに伴って、シラバスでの授業計画の記載を15週表記とするように徹底した。 (26)

c 開催状況(教員の参加状況含む)

①研究会は開催日等の関係もあり小規模なものとなっているが、継続的に開催されている。

平成25年度も5学科及び1センターで「研究室訪問」を実施、170名の教職員が参加した。 (26)

②授業アンケートは運用開始以降定着しており、半期ごとに恒例の事項となっている。

教務委員会の開催とは別に、個別のワーキンググループの会議を6月から1月で計13回実施。メンバーは教務委員会の教員及び職員9名 (23)

平成24年度の前後期授業終了時に新方式でのアンケートを実施。 (25)

平成25年度も前後期授業終了後にアンケートを実施 (26)

③通常期間中の授業参観は2010年度以降、年2回の合評期間中の他学科の授業参観や合評参加は2005年度の開始以降定着しており、学科を越えた授業参観が実施されている。

11月に実施、集中研修受講者25名に加え、教務委員会の教員も参加。 (26)

④この方法での自己点検評価は2009年度実施(点検対象年度は2008年度)からの取り組みであり、現在3年目の自己点検評価を実施中である (23)

現在4年目の自己点検評価を実施中 (24)

現在5年目の自己点検評価を実施中 (25)

現在6年目の自己点検評価を実施中 (26)

⑤教務委員会の開催とは別に、個別のワーキンググループの会議を5月から11月で計8回実施。メンバーは教務委員会の教員及び職員9名 (23)

平成24年度も継続して個別ワーキンググループを組織し、内容の点検及び実施を行った (25)

平成25年度も継続して個別ワーキンググループを組織し、内容の点検及び実施を行った (26)

- ⑥平成24年2月と3月にそれぞれ2日間の集中研修を実施。24年度の予定としては、8月及び2月にそれぞれ2日間の集中研修と、5月及び12月に講師による参加教員の授業参観を行い、授業方法のコンサルテーションを予定している。参加教員は、27名。(23～24)
平成24年度は、予定通り、年間60時間を越えるプログラムを実施。(25)
平成25年度も、25名の教員を対象に年間60時間を越えるプログラムを実施。(26)
- ⑦平成23年12月より平成24年4月までで、都合13回実施。平成24年度6月の答申までに4～5回実施予定。メンバーは、学内から選抜した8名の教員及び職員で構成(23～24)
平成24年6月に平成26年度からのカリキュラム改革に向けての答申を行った。(25)

d 実施結果を踏まえた授業改善への取組状況

前述の事項については既に継続して取り組んできており、授業改善の方法の一つとして定着している。今後は2009年度より見直しを行なった教員個人に対する教育活動点検評価の結果を参考にしつつ、学内のコミュニケーションを密にし学生本位のカリキュラム作りや教員の資質の維持向上を図ること、教職員と学生を巻き込んだFD活動に取り組む予定である。

②従来の教員の授業環境に対する評価に加え、学生の取組姿勢を問う項目も加え、アンケート項目を再編成。平成24年度より、新項目での授業評価アンケートを実施する予定(24)
現在平成24年度分の授業アンケートの分析中。平成26年度のカリキュラム改革を念頭にその活用方法を検討する(25)

平成24年度の授業アンケートの分析の結果、一部項目について設問項目を変更し、平成25年度実施した。現在平成25年度の授業アンケートの分析中。(26)

⑤平成23年度からのAO入学者に対する入学前プログラムにおいて、課題の提出促進や返却における変更を行った。結果、課題提出率の向上、返却期間の短縮などの成果があった(23)
平成25年度には、入学前学習プログラムにキャリア系科目を追加。また課題の解説映像を公開するなどの改善を行った。(26)

⑥23年度から24年度は、教員研修の期間と位置づけていたが、研修を受けて、新入生の導入ガイダンスを実施する学科や、授業方法の改善を試みる教員が多数いる(23～24)
平成25年度もメンバーを刷新し、引続き第2期の研修を実施中。1期生の自主的な参加もあり、教員間交流にも役立っている。(25)

授業アンケートの結果、集中研修を受けた教員の授業の授業評価が有意に高い結果となり、受講者は、学科内での授業改善の牽引役を担っている。現在第3期生30名の研修が始まっている(26)

⑦平成24年6月の教授会での提案を予定。その後、中長期計画として整理し、次年度以降の教育改革に繋げていく(23～24)

答申を受け、平成26年度カリキュラム改革の準備に入った。就業力の強化をベースに据え、学修に対するモチベーションの軸にキャリア指導を置き、授業運営の改革を目指し、共通評価指標の導入を決定した。平成25年度は、授業運営や履修指導のトライアル運営など、本格実施に向けての準備を行う。(25)

平成24年度の特別委員会の答申を受け、「ふたつの力と7つの能力」を身に付ける事を学部のディプロマポリシーと定義し、全ての科目においての共通評価指標とする事を決定。平成25年度には、同評価指標での授業運営を行うトライアル科目として約70科目設定し、授業運営の方法についての研究を行った。授業アンケートの結果、トライアル科目の授業評価が有意に高い結果となり、学習意欲の向上や学習環境の改善につながっている事が確認できた。(26)

⑧CAP制導入の結果、特に1年生の履修登録過多の学生が大幅に減少した。(26)

③ 学生に対する授業評価アンケートの実施状況

a 実施の有無及び実施時期

毎年実施。前後期授業最終回に実施。(25)

毎年実施。前後期授業最終回に実施。(26)

b 教員や学生への公開状況、方法等

授業毎に集計を行い、教員に対しては、学科事務室を通じて全教員に対して公開。学生に対しては、集計結果を大学HP上に掲載し、公開している。(25)

現在平成25年度分についての分析中。集計については、例年通り大学HPでの公開を予定している。(26)

(注)・「①a 委員会の設置状況」には、関係規程等を転載又は添付すること。

「②実施状況」には、実施されている取組を全て記載すること。(記入例参照)

(3) 自己点検・評価等に関する事項

① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見

本学では、芸術教育による人間精神の復興を目指すことを教育の根幹に据え、「芸術による日本の立国」に寄与することを目的としているが、そのために自己点検・評価を継続的に実施し、教育改善に取り組むことはきわめて重要な事項であると認識している。前述の通り、「自己点検・評価委員会」を設置する一方で、学科・コース単位でも自己点検に取り組み、委員会組織のみの活動ではない全学的な取り組みとして自己点検・評価を実施している。2009年度には教員個人に対する自己点検・評価の方法を見直し、自己点検と組織内のコミュニケーションをこれまで以上に重視することとなった。

また、2010年度より全学的なFD活動（教職員合同FD研修、3つのポリシー（カリキュラムポリシー、アドミッションポリシー、グラデュエーションポリシー）と入学前学習プログラムの点検等）がスタートし、これにより大学運営や教育の現場に携わる教員だけでなく、職員までを対象とした個々の意識改革、向上を目指し、組織強化・改善を図っている。

更に2014年度に就業力の修得に重点をおいたカリキュラム改革を計画しており、2011年度下期からその準備に入っている。（25）

② 自己点検・評価報告書

a 公表（予定）時期

・平成26年10月 公表予定

b 公表方法

・大学ホームページ上に公開予定

③ 認証評価を受ける計画

平成22年度に評価機関（日本高等教育評価機構）の評価を受け、2011年3月25日付で「日本高等教育評価機構が定める大学評価基準を満たしている」と認定された。認定期間は平成22（2010）年4月1日より平成29（2017）年3月31日までの7年間となる。

日本高等教育評価機構による評価報告書ならびに自己評価報告書については、本学ホームページ上に公開されている。

(注) ・ 設置時の計画の変更（又は未実施）の有無に関わらず記入してください。

また、「① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見」については、できるだけ具体的な根拠を含めて記入してください。

なお、「② 自己点検・評価報告書」については、当該調査対象の組織に関する評価内容を含む報告書について記入してください。

(4) 情報公表に関する事項

○ 設置計画履行状況報告書

a ホームページに公表の有無

(有 無)

b 公表時期（未公表の場合は予定時期）

(平成 27 年 3 月)